

第1章 革命後のチュニジアにおけるイスラーム武装闘争派 ——「アンサール・シャリーア」の伸長と現状

若桑 遼

はじめに

本稿は、革命後のチュニジアのイスラーム武装闘争派を取り上げ、その成立と発展、組織構造を論じることを目的とする。さらにチュニジア人武装闘争派の一部が国境を越えて活動していることに注目し、中東・北アフリカ地域およびサハラ・サーヘル地域のジハード主義組織との関連性について考察する。

チュニジアにおける民主主義体制の移行プロセスは、紆余曲折を経て進行している。2011年以降続く、アラブ政変の口火を切ったのはチュニジアであった。2010年末にチュニジア中部スィディ・ブズィードで失業者による抗議行動が起こり、全国に反体制運動が拡大して、2011年1月ベン・アリー大統領は国外に亡命した。同年10月23日に新憲法の制定をめざした国民制憲議会選挙が実施されると、2年以上をかけて憲法が起草され、2014年1月26日に議会により可決された（施行は2月10日）。この憲法に基づき、同年10月26日に議会選挙が、ついで11月23日に大統領選挙が行われ、12月29日に第二回投票により「チュニジアの呼びかけ」党のベージ・カーイド・セブスィー氏（al-Bājī Qā'id al-Sibsī）が革命後の正式な大統領に選出された。政党・市民社会団体・労働組合を包含する「国民対話」を通じて、民主主義体制への移行を達成しようとするチュニジアのプロセスと成果は、中東・北アフリカの民主化のマイル・ストーンとなることが期待される。

他方、民主主義体制への移行は、国内でのテロリズムの脅威にさらされた。2013年2月6日と7月25日に野党政治家の暗殺事件が起こり、2度の首相辞職などの深刻な政治的・社会的危機を生じさせた。チュニジア政府と内務省は、暗殺事件に関与したとして、「アンサール・シャリーア」（Anṣār al-Sharī'a, 「イスラーム法の支援者たち」の意）をテロ組織に指定したことを発表した（2013年8月28日）。同組織は、革命後に誕生・発展した、チュニジアにおけるサラフィー・ジハード主義者の中核組織である。2014年1月にはアメリカ合衆国国務省により、リビアのベンガジとデルナの同名の団体とともに「国外テロ組織」に指定されている¹。アリー・アライド（'Alī al-'Arayyid）・チュニジア暫定首相（当時）は、アンサール・シャリーアを国内のテロ組織と認定したことを発表した記者会見で次のように述べている。

「アンサール・シャリーアは軍事部門をもち、また武器の収集と配布における活動網を

もつ組織である。そして海外のテロリスト組織、すなわちイスラーム・マグリブ諸国のカーイダ（Al-Qaida au Maghreb Islamique/AQMI）と関係をもっている。内務省、公正省、国防軍の諸機関によって行われた調査で、このグループがシュクリー・ベルアイード（Shukrī Bil-‘Ayīd）とムハンマド・ブラーフミー（Muḥammad al-Burāhmī）の暗殺と、国軍・治安部隊の犠牲者たちの殺害に関与したことが明らかとなった²。2013年から2014年にかけて、チュニジア当局は「テロリズムとの戦い」を掲げて同組織に対する大規模な掃討作戦を展開した。本稿が執筆された2014年末の時点で国内の細胞組織は壊滅されつつあり、活動は都市部からアルジェリアとの国境付近の山岳地帯に移っている。本稿ではまずアンサール・シャリーアの成立・組織構造を把握し、その後、アルジェリア国境付近の山岳地帯で活動するAQMIに帰属する集団を扱い、さらにサハラ・サーヘル地域、中東・北アフリカ地域のジハード主義組織との連関的分析を行う。

1. 「アンサール・シャリーア」の誕生と発展

（1）総指揮官サイフッラー・イブン・フサイン

アンサール・シャリーアの成立・実態的活動を考えるうえで重要なのは、創設者・指導者サイフッラー・イブン・フサイン（Sayf Allāh ibn Ḥusayn）、別名アブー・イーヤード（Abū ‘Iyād）である。彼はカーイダの思想の支持者であると公言し、総指揮官という立場からアンサール・シャリーアを指導し、他地域のジハード主義組織とも密接な関係を築いた。

サイフッラー・イブン・フサインは、1965年チュニスに生まれた。当初、ナフダの前身である「イスラーム志向運動」に参加したイブン・フサインは、ベン・アリー政権がイスラーム主義勢力を政治的脅威と目して彼らの活動に弾圧を加えたため、モロッコにわたり同地で法律を学んだ。モロッコ政権の監視下に置かれたため、同人はロンドンに向かい、地下活動を行い、ロンドン在住の著名なジハード主義イデオログ、パレスティナ人アブー・カタダ（Abū Qatāda al-Filasṭīnī）に思想的影響を受けた。その後、イブン・フサインは、パキスタンへ移り、ジャラーラバードのアフガニスタン撤退運動に参加した。カーイダの指導者ウサーマ・イブン・ラーディン（Usāma Ibn Lādin）とも「良好な関係」を構築した。イブン・フサインは2000年にチュニジア出身でベルギー国籍を有するターリク・マアルーフイー（Ṭāriq Ma‘rūfī）とともに「チュニジア戦闘集団」を結成した。マアルーフイーは、2001年9月、アフガニスタン北部同盟の指導者アフマド・シャー・マスウード（Aḥmad Shā Mas‘ūd）殺害に関与したとしてベルギー当局に拘束され、その後ベルギー国籍を剥奪された。

イブン・フサインは、2001年2月、アフガニスタンを離れ、トルコに移ったが、2001

年9月11日の同時多発テロの結果、ヨーロッパ諸国で国際指名手配を受け、2003年2月3日、トルコで拘束された。こうして同人は2003年3月3日、チュニジア政権に身柄が引き渡され、国家転覆とカーイダ・その他のイスラーム主義組織への帰属の罪を問われて、68年の禁固刑の判決を受けた。チュニジアでの政変後、暫定政権が政治犯の恩赦を行い、2011年3月2日釈放された。サイフッラーは革命後の政治的自由を享受して、釈放直後にアンサール・シャリーアの他の幹部らと接触をとり、チュニジアにおけるサラフィー・ジハード主義組織の結成を図り、国内ではチュニジア全土のモスクに赴き、宣教活動を行った。2012年9月14日、在チュニジア・アメリカ大使館襲撃に関与したとして同人は治安当局の捜査対象となり、それ以降、公的な場所には姿を現していない。

(2) 組織構造

チュニジア内務省が2013年8月28日に行った記者会見では、同組織の非合法活動の実態、および周辺地域のイスラーム武装闘争派との関係が明らかにされている。これらは貴重な情報源であり、以下では主に記者会見の内容に基づいて分析を行う³。

宣教部門はアンサール・シャリーアの「表の顔」である⁴。アンサール・シャリーアは宣教・慈善活動のプログラムを軸として広範囲の社会層との接触を図り、浸透してきた。その活動は、公式サイト、各種のSNS（フェイスブック、ツイッター）、YouTube上のアカウントで追跡しうる⁵。彼らはモスクを拠点としてイスラームの説教、講義、勉強会、集会を組織し、公共の場での宣教のためにテントやテーブルを開設した。また慈善活動も活動の柱であった。チュニジア各地で、アンサール・シャリーア系のイスラーム慈善協会が設立され、無償の医療活動が行われ、ラマダーン月中には主に貧困家庭に向けて食料品を入れた慈善バスケットが配給された。

内務省の記者会見では、宣教部門以外の3つは公にさらされることのない「秘密部門(al-jihāz al-sirrī)」であったことが明らかにされた。2件の政治家暗殺事件の捜査過程で、2013年8月5日に、アンサール・シャリーアの幹部の自宅で組織構造の記されたメモが押収された。これによればアンサール・シャリーアは総指揮官(サイフッラー・イブン・フサイン)の下に、宣教部門(al-jihāz al-da'wī)に加え、治安部門(al-jihāz al-amnī)、軍事部門(al-jihāz al-'askarī)、財務部門(al-jihāz al-mālī)という4つの部門をもった(表1)。

治安部門は、主要な政治家・ジャーナリスト・学者などの行動を観察し、情報収集を行う役割を担った。責任者は、アンサール・シャリーアの中で第3番目のムハンマド・アッカーリー(Muḥammad al-'Akkārī)という人物である。アッカーリーの下で活動する主要な構成員の中には、アンサール・シャリーアの秘密部門(al-jihāz al-sirrī)で活動する高学歴の新たな構成員

を集め、動員する役割を担う者もいた。こうしてまず政治家、ついでジャーナリスト、治安関係者を標的とする暗殺対象者のリストが作成され、情報はのちに軍事部門で検討に付された。

軍事部門は、組織の中で第2番目のムハンマド・アウワーディー (Muḥammad al-‘Awwādī) という人物が監督した。軍事部門の幹部アーディル・サイーディー (‘Ādil al-Sa‘īdī) は、チュニジア国内のアンサール・シャリーアの中堅幹部を監督した。これらの中堅幹部はサイーディーの命令を実行し、さまざまな場所で時宜をみた作戦を実行した。たとえば、2013年7月27日にラ・グーレットの海軍車両爆破が行われた。幹部らは、国外のテロ組織に加入するため、構成員に武器・爆弾を支給したとみられている。武器庫はメドニン県とムニーフラ (アリヤーナ県) に2つ発見されており、携帯式対戦車擲弾発射器 RPG、砲弾、カラシニコフ自動小銃などが当局により押収された。軍事部門は、組織の上級幹部が担い、その下に中堅幹部が集団指揮官の役割を担い、その下にさまざまな集団が位置づけられた (表2)。

表1 アンサール・シャリーアの組織構造

総指揮官 (al-amīr al-‘āmm)			
財務部門 (al-jihāz al-mālī)	軍事部門 (al-jihāz al-‘askarī)	治安部門 (al-jihāz al-amnī)	宣教部門 (al-jihāz al-da‘wī)

*2013年8月28日のチュニジア内務省・記者会見を基に筆者作成。

表2 軍事部門の下部構成

シャイフ (al-shaykh)		
サイフッラー・イブン・フサイン		
上級幹部		
アーディル・サイーディー 'Ādil al-Sa‘īdī	ムハンマド・アウワーディー Muḥammad al-‘Awwādī	ムハンマド・アッカーリー Muḥammad al-‘Akkārī
集団指揮官 (amīr al-majmū‘a) 中堅幹部		
ムハンマド・ハイヤーリー Muḥammad al-Khayyārī	カマール・カドカーディー Kamāl al-Qaḍqāḍī	リヤード・ラウワーティー Riyāḍ al-Lawwātī
武器積載集団 (majmū‘a al-ta‘bi‘a bil-aslaḥa)	支援・実行集団 (majmū‘a al-da‘m wa al-tanfīz)	準備活動集団 (majmū‘a al-a‘māl al-tahḍīrīya)
アフマド・ラウィーシー Aḥmad al-Rawīsī	ブー・バクル・ハキーム Bū Bakr al-Ḥakīm	マルワーン・ハーッジュ・サーリフ Marwān al-Ḥājj Šāliḥ
サリーム・サイーディー Salīm al-Sa‘īdī	ロトフィー・ズィーン Luṭfī al-Zīn	(その他5名)
	(その他6名)	

*2013年8月28日のチュニジア内務省・記者会見を基に筆者作成。

表3 アンサール・シャリーア幹部

名前/戦士名	生年・出身地	職業	備考
サイフッラー・イブン・フサイン/ アブー・イーヤード (Sayf Allāh ibn Ḥusayn/Abū 'Īyād)	1967年・チュニス	会社員	創設者・最高指導者。マアルーフイーとともにカーイダ傘下「チュニジア戦闘集団 (GCT)」結成 (2000年)。革命後の恩赦享受。指名手配。
ムハンマド・アウワーディー/タ ウィール (Muḥammad al-'Awwādī/Ṭawīl)	1974年・チュニス	日雇労働者	ナンバー2。軍事部門の指導者。在イタリアのGSPC (AQMIの前身) 細胞に帰属。革命後の恩赦享受。2013年9月9日、当局により拘束。
ムハンマド・アッカーリー/ラファ イヤート or マフディー (Muḥammad al-'Akkārī/Lāfayāt or Mahdī)	1975年・チュニス	食料品販売 業	ナンバー3。治安部門の指導者。カーイダのザワーヒリーに忠誠の誓い。イラク戦争に参加し、アメリカ軍に拘束 (2005年)。革命後の恩赦享受。2013年8月末、拘束。
アーディル・サイーディー/ア ブー・アフマド (‘Ādil al-Sa‘īdī/Abū Aḥmad)	1971年 (出身地不明)	(不明)	軍事部門の幹部。政治家・ジャーナリストの暗殺リスト作成。革命後の恩赦享受。当局により拘束 (2013年8月5日)。
ブー・バクル・ハキーム/アブー・ ムカーティル (Bū Bakr al-Ḥakīm/Abū al-Muqātil)	1983年・パリ	海外在住・労 働者	フランス国籍保持者。イラク戦争に参加。革命後の恩赦享受。政治家暗殺の実行犯。指名手配。IS帰属。
アフマド・ラウィーシー/ア ブー・ザカリヤー (Aḥmad al-Rawīsī/Abū Zakariyā)	1967年・チュニス	会社経営者	政治家暗殺に関与。リビアで軍事訓練指揮。指名手配。
リヤード・ラウワーティー (Riyād al-Lawwātī)	1979年 (出身地不明)	(不明)	軍事部門の構成員。ブラーフミー暗殺実行犯。当局の掃討作戦で死亡。
ロトフィー・ズィーン (Luṭfī al-Zīn)	1976年・スリヤナ	配送業	当局の掃討作戦で死亡 (2013年10月17日)。
カマール・カドカーディー/ア ブー・サイヤーフ (Kamāl al-Qaḍqāḍī/Abū Sayyāf)	1979年・チュニス	会社財務	政治家暗殺の実行犯。当局の掃討作戦で死亡 (2014年2月4日)。

*チュニジア内務省の公開情報・通達、チュニジア・メディアの情報などを基に筆者作成。

上記に加えて、主に学生から成る青年構成員が、アンサール・シャリーアの求めに応じて情報を収集し、報酬を受けていたとされる。また、ニカーブ着用の未成年少女を集めて「婚姻のジハード (Jihād al-Nikāh)」を行う女性構成員の存在が指摘されている。2013年8月9日に解体された細胞組織は、1996年生まれ少女が指揮し、カセリーン県シャアーニビー山で潜伏する構成員を支援するために少女を集め、同地に随行した。

(3) 他のジハード主義組織とのかかわり

上記のチュニジア内務省の会見では、アンサール・シャリーアと他のジハード主義組織とのかかわりも明らかにされている。

①リビアのジハード主義組織とのつながり

革命後、アンサール・シャリーアの幹部の多くが、リビアに繰り返し入国した。その目的は、リビアの秘密の軍事基地において武器の使用の訓練を受けることであった。そのうちチュニジアに帰還した者、シリアの戦地に実際に向かった者がいた。

②カーイダとのつながり

同会見ではアンサール・シャリーアがカーイダとの関係を保っていたことが明らかにされている。最高指導者のイブン・フサインは AQMI の指導者アブー・ムサブ・アブドゥルウドゥード (Abū Mus‘ab ‘al-Wudūd) に忠誠の誓いを立てており、忠誠の誓いの文言は「私は、喜びと憎しみにおいて命令に聞き従い、あなたに忠誠を誓う。私は、苦難と安楽において命令に聞き従い、あなたに忠誠を誓う」というものであった。アンサール・シャリーアの構成員もアブー・イーヤードに対して同様の文言で忠誠を誓った。マシュリク (東方アラブ世界) の構成員とは skype などのインターネット電話を通じて連絡を維持したとされる。

③カセリーン県シャアーニビー山岳地帯集団とのつながり

同会見では、アンサール・シャリーアの主要な構成員が、幹部層の集会、軍事訓練、あるいは戦闘への参加を目的として、武装分子の潜伏するカセリーン県シャアーニビー山に繰り返し赴いたことが明らかにされている。2013年2月と7月に起きた政治家暗殺の実行犯は、事件後、当局の捜査を逃れるため、イブン・フサインの直接的な指令を受けて、シャアーニビー山の集団に加わり、潜伏したとされる。

(4) 掃討作戦

現在まで当局の掃討作戦が展開され、アンサール・シャリーアのチュニジア国内の細胞組織は解体されつつある。2013年9月9日、マヌーバ県モルナーギーヤでは組織で第2番目のアウワーディーと中堅幹部のハイヤーリーが拘束された。2013年10月17日、ベージュ県ゴブレートでは暗殺事件の実行犯のひとりであるロトフィー・ズィーンを含むテロリストが殺害され、2014年2月4日、アリヤーナ県ラウワードでは中堅幹部のカドカーディーが殺害された。幹部層の多くは死亡したか、あるいは拘束されているが、逃亡した者はリビアなど他国のジハード主義組織に加わり、潜伏しているとみられる。

2. チュニジアにおける武装闘争派の伸長

当局の掃討作戦により、テロリストの活動は都市部から山岳地帯に移っている。軍事訓練キャンプは、基本的にはアルジェリア国境に隣接するジャンドゥーバ県、ケーフ県、およびカセリーン県の険しい山岳地帯で発見されている。AQMI のアルジェリア人指導者がキャンプを統率していることが確認されている。チュニジア人構成員を有するウクバ・イブン・ナーフィウ部隊 (Katība ‘Uqba Ibn Nāfi‘) と呼ばれる集団が組織され、アンサール・シャリーアの構成員が合流している。以下ではチュニジアの山岳地帯を拠点とするイスラーム武装闘争派の展開を考察する。

(1) 革命以前のナーブル県スライマーンの武装集団

チュニジアの山岳地帯の武装集団の存在は、政変以前の 2006 年 12 月 23 日と 2007 年 1 月 3 日にナーブル県スライマーンで起きた衝突によって知られるようになった。チュニジアの治安部隊 (警察、国家警備隊、国軍) は、ベン・アルース県ハンマーム・アンフとナーブル県スライマーンで大規模な反テロ掃討作戦を実行した。内務省によれば、治安当局のうち 5 名が衝突で死亡し、15 名が逮捕された。武装分子は、チュニジア人、アルジェリア人、モーリタニア人で構成された。この集団は、アルジェリアからチュニジアに入り、ベン・アルース県のラサース山に AQMI と関係をもつ軍事訓練キャンプを設営していた。このスライマーンの集団には、革命後の恩赦を受けて釈放され、アンサール・シャリーアに帰属した者が確認されている。

(2) 革命以後の展開：過激派伸長の萌芽

チュニジアの政変以降、2012 年 12 月末までに 4 つの事件が国内の過激派伸長の兆候として確認されるようになった。①スィリヤーナ県ルーヒーヤ事件 (2011 年 5 月 18 日)、②スファークス県ビール・アリー・イブン・ハリーフア事件 (2012 年 2 月初旬)、③カセリーン県シャアーニビー山事件 (2012 年 12 月 10 日)、④ジャンドゥーバ県アイン・ダラーヒム山岳部の事件 (2012 年 12 月 8 日) である。これらの衝突は互いに連関性をもっている。

①2011 年 5 月 18 日のスィリヤーナ県ルーヒーヤにおける衝突は、武器を所持した集団と治安部隊のあいだで起きたものである⁶。治安当局がカラシニコフ銃と爆発物を固定したベルト、麻薬を所持している集団を発見したが、集団は軍と国家警備隊に向けて発砲し、軍人 2 名が死亡し、1 名が重傷を負った。武装分子のうち、2 名が殺害された。武装分子は AQMI に帰属するリビア人、アルジェリア人、チュニジア人で構成された⁷。

②2012 年 2 月初旬、ビール・アリー・イブン・ハリーフア (スファークス県) では、青

年らからなる武装分子と治安部隊の間で銃撃戦が行われ、武装分子2名が殺害され、その他5名が拘束された⁸。このときビール・アリー・イブン・ハリーファで押収された武器は、軍事キャンプを設営するためにカセリーン県のシャアーニビー山岳地帯に運ばれる途中であった可能性が高いものであった⁹。

③2012年末にチュニジア・アルジェリア国境の山岳部で、軍事訓練キャンプがはじめて発見された。2012年12月10日、治安当局はカセリーン県シャアーニビー山岳地帯で、AQMIに属するウクバ・イブン・ナーフィウ部隊の8名のテロリスト集団を拘束した（その他の者は逃亡）。部隊はチュニジア人、リビア人、アルジェリア人で構成され、3名のアルジェリア人がキャンプを指導していた。アリー・アライド内務大臣（当時）は、集団の主要な目的を「チュニジアにおけるジハードの再興、イスラーム法の施行、および過激思想で形成された青年たちに軍事的・信条的な訓練を施し、アルジェリアやリビアのカーイダの駐屯地へ派遣すること」であると表現した¹⁰。武器の供給源はリビアとアルジェリアであるとみられ、集団の資金の供給源はリビアとアルジェリアのAQMIに帰属するグループが行っていた。

④シャアーニビー山岳地帯の搜索と並行し、2012年12月6日、ジャンドゥーバ県アイン・ダラーヒム山岳部国家警備隊が、武装分子の集団を発見し、6名を拘束した。そのうち3名がリビア人、1名がチュニジア人であった。拘束者は、カセリーン県のシャアーニビー山に存在する集団と関係をもち、その他の集団はジャンドゥーバ県アイン・ダラーヒム山岳部に潜伏した¹¹。

（3）武装闘争派の大規模な掃討作戦の展開

野党政治家の暗殺により、深刻な政治・社会の危機を迎えたことから、武装闘争派に対する当局の取り締まりが強化され、AQMIの武装分子と軍・治安当局との間で継続的に衝突が行われるようになった。2014年6月11日のムハンマド・アリー・アラウィー（Muhammad ‘Alī al-‘Arawī）内務省スポークスマンの談話によれば、カセリーン県の掃討作戦では治安当局者38名（警察・国家警備隊19名、軍人19名）が死亡し、140名負傷、うち48名が重傷を負った¹²。

2013年7月26日の野党政治家ムハンマド・ブラーフミーの暗殺の3日後の7月29日にシャアーニビー山岳地帯で武装集団による攻撃を受けて軍人8名が死亡し、3名が負傷した。これはチュニジア革命以降、イスラーム武装闘争派による最大の犠牲者を出した衝突であった。その直後からチュニジア国軍は、アルジェリア国境に潜伏する武装集団を掃討するため、空・陸軍部隊を用いた、大規模な軍事作戦を開始した¹³。アルジェリア側では、

8月1日、ダフー・ウルド・カービリーヤ・アルジェリア内務大臣（Dahū Walad Qābiliya）がアルジェリア東部の国境の軍備を強化すると発表した¹⁴。2013年8月29日、チュニジア政府はリビア、アルジェリアからの武器の密輸とテロの脅威を封じ込めるために、チュニジア南部におけるアルジェリア・リビアとの国境線を緩衝地帯に設定し¹⁵、また2014年4月11日にシャアーニビー山および近隣の山岳地帯を「軍事的閉鎖区域」に指定している¹⁶。

2014年7月16日、カセリーン県シャアーニビー山岳地帯で国軍の駐屯する監視ポストを標的としたふたつの攻撃によって少なくとも軍人15名が死亡、20名が負傷した。この攻撃は「1956年の独立以降、チュニジア国軍が成立して最大の犠牲」（ムハンマド・ムンスィフ・マルズキー・チュニジア共和国大統領（Muhammad Munsif al-Marzūqī）であった¹⁷。テロリストの攻撃はロケット推進式榴弾（RPG）が使用されて行われ、ウクバ・イブン・ナーフィウ部隊がフェイスブック上の公式アカウント「カイラワーンの夜明け（al-Fajr al-Qayrawān）」上で攻撃を実行したという声明を發した¹⁸。7月22日、マフディー・ジウムア・チュニジア暫定首相（Mahdī Juma'）は、国防大臣、外務大臣、治安担当国防大臣補佐など治安・国防関係者が随行してアルジェリアのテベッサ県を短期訪問し、アルジェリアのアブドゥルマーリク・サッラール首相（Abd al-Mālik Sallāl）および治安・国防関係者と協議を行った。この協議の主要な方針は、安全保障・軍事上の協力の追跡・推進、および両国間の安全保障・軍事上の情報の伝達、ならびに兵站業務の強化であった¹⁹。

（4）カセリーン県シャアーニビー山岳地帯、およびケーフ県・ジャンドゥーバ県山岳地帯のテロリスト集団の構成

アルジェリア国境付近の山岳地帯に潜伏するテロリストは誰なのか。これらの分子は国外から侵入した AQMI の構成員であり、リクルートされたチュニジア人が加わっていると考えられる²⁰。拘束された武装分子の自供によれば、シャアーニビー山に潜伏する集団は30名程度で、アルジェリア人15名のほか、チュニジア人、モーリタニア人、マリ人などの構成員が含まれる²¹。2014年末の時点で全体の規模は100～110人程度であると試算されている²²。

2013年5月31日の記者会見で、ムハンマド・アリー・アラウィー内務省スポークスマンは、カセリーン県、ケーフ県、ジャンドゥーバ県で潜伏するチュニジア人分子の情報を公開している。山岳地帯に潜伏するとみられるテロリストは、チュニジア人19名、アルジェリア人11名であり、シャアーニビー山岳地帯の衝突に加わったとして実際に45名が拘束されたと公表されている²³。チュニジア人19名については、出身地やアイデンティティ番号などの情報が公開されている。以下では、この情報にもとづき、武装分子のリクルート

背景と出身地別人数の分析を行う²⁴。

潜伏するチュニジア人武装分子の県別出身地は、以下のとおりである（表4）。ジャンドゥーバ県が7名で最多である。ついでカセリーン県が4名で多く、マヌーバ県、ケーフ県がこれに続く。これを見ると、軍事訓練キャンプはアルジェリアに国境を接する近隣諸県から人員がリクルートされていることがわかる。

表4 潜伏するテロリストの県別居住地

県別居住地	人数
ジャンドゥーバ県	7
カセリーン県	4
マヌーバ県	3
ケーフ県	3
スイリヤーナ県	1
スイディ・ブーズィード県	1
アルジェリア	11
合計	30

*2013年5月31日の内務省・記者会見で公表されたテロリスト集団の情報にもとづき筆者作成。

表5の年齢別の構成を見ると、25～29歳の占める割合が最も高く、ついで20～24歳の構成員の数が多（4名）。35～40歳という比較的高い年齢層からも参加がみられる一方で、25歳未満、とくに19歳以下の若年層のリクルートがみられることが特筆される。

表5 潜伏するテロリストの年齢構成（2013年時点）

年齢構成	人数
35～40	3
30～34	3
25～29	6
20～24	4
15～19	3
合計	19

*チュニジア内務省・記者会見で公表された情報にもとづき筆者作成。

表6の職業別分類を見ると、日雇労働者が大多数を占めており、学生・職業訓練生が4名である。いずれも不安定な就労条件にある者がリクルートされていることがわかる。

表6 潜伏するチュニジア人テロリストの職業

職業	人数
日雇労働者	15
学生	3
職業訓練中	1
合計	19

*2013年5月31日の内務省・記者会見で公表された情報にもとづき筆者作成。

以上より、山岳地帯に潜伏するテロリスト集団におけるチュニジア人構成員は、地理的に近い諸県において、収入・身分が比較的安定していない者の中からリクルートされる傾向があることがわかる。

3. 越境するチュニジア人ジハード主義者の存在

以下では、テロの地域的連関を考察するために、越境するチュニジア人ジハード主義者の存在に考察の対象を移したい。

2011年のシリア内戦勃発以降、シリアの戦地に入るチュニジア人の増加が確認されている。2013年3月以降、政府によってシリア渡航を禁じられたチュニジア人の数は9000人近くに上る。チュニジア内務省が提供する情報によれば、チュニジアの政変以降、2500人から3000人のチュニジア人がシリアで戦闘に従事し、うちおよそ500名が戦死したとされる²⁵。他方、アメリカ合衆国政府系シンクタンク・ワシントン近東政策研究所(The Washington Institute for Near East Policy)は、独自の調査により2013年末までにシリアで戦死したアラブ諸国の戦闘員の数を提示している。それによれば、サウディアラビア出身者が267名、リビア出身者が201名、ついでチュニジア出身者が182名であり、そのあとにヨルダン95名、エジプト79名が続く²⁶。チュニジアはアラブ諸国で三番目に多い戦死者を出している。チュニジア人戦闘員の多くは、はじめカーイダ系のヌスラ戦線やその他のジハード主義組織に帰属したことが確認されるが、「イスラーム国」がイラク・モースルを掌握した2014年6月頃を境に、「イスラーム国」に帰属を移したとみられる。現在は大多数のチュニジア人戦闘員(およそ80パーセント)が「イスラーム国」に属する²⁷。

チュニジア人ジハード主義者は、アルジェリアのジハード主義組織と密接な関係を持っていると考えられる。2013年1月にアイン・アミーナース（イナメナス）のガス・プラントで起こった人質事件は、アルジェリア人ムフタール・ベルムフタール（Mukhtār Bel-Mukhtār）を長とする「血盟団」が首謀したとされる。同事件でアルジェリア当局により掃討・拘束されたテロ行為の実行犯は32名で、8つの国籍保持者から構成された。そのうちチュニジア人構成員の数は11名で、国別にみると最多である（表7）。チュニジア人のほかには、アルジェリア人3名、エジプト人、マリ人、ニジェール人2名、カナダ人2名、モーリタニア人1名がこの中に含まれた²⁸。「血盟団」は2013年8月以降、「西アフリカにおけるタウヒード・ジハード運動（MUJAO）」と連携を強化しており、両組織のなかには一定程度のチュニジア人ジハード主義者が含まれていると推測される。

表7 2013年1月、アイン・アミーナース（イナメナス）のアルジェリア人質事件の実行犯32名8国籍（29名殺害、3名拘束）

実行犯国籍	人数
チュニジア	11
アルジェリア	3
ニジェール	2
カナダ	2
モーリタニア	1
エジプト	（複数名）
マリ	（複数名）

*2011年1月20日、アブドゥルマーリク・サッラール・アルジェリア首相（当時）の記者会見にもとづき筆者作成。

チュニジア人戦闘員はAQMIに合流していることもわかる。既述の通り、アルジェリア・チュニジア国境の山岳地帯では、AQMIの指揮下にある武装分子が潜伏しており、アルジェリア人指導者に加え、マリ人やモーリタニア人を構成員とし、近隣諸県を中心にチュニジア人のリクルートも行われている。政変後、AQMIの傘下にあるチュニジア人を中心とすると見られるウクバ・イブン・ナーフィウ部隊も形成された。ただし、ウクバ・イブン・ナーフィウ部隊はカーイダの指揮下にあったが、「イスラーム国」の勢力拡大とともに、カーイダ派と「イスラーム国」派とのあいだで内部分裂が見られたことが指摘されている²⁹。すでに見たとおり、これらの武装分子の全体の数はおよそ100人程度であると推測される。

リビアで活動するチュニジア人ジハード主義者の正確な数は把握されていない。しかしカッザーフィー体制崩壊後の治安の空白を利用して、アンサール・シャリーアの幹部・構成員をはじめとする一定の数のチュニジア人が秘密裏に軍事訓練を指導した、あるいは受けたことが確認されている。訓練を受けた後、シリアの戦地に向かった者も存在する。現在、指名手配中のアンサール・シャリーアの幹部・構成員がリビアに潜伏している可能性も指摘されている³⁰。

チュニジア人ジハード主義者は AQMI や血盟団、MUJAO など、アルジェリアを主な活動領域とするジハード主義組織を介して、マリ、ニジェールにも一定程度、侵入していると考えられる。2012 年後半、イスラーム武装闘争派がイスラーム法を施行してマリ北部を実効支配した。これを受けて 2013 年 1 月、フランスがマリに軍事介入を開始したため、北アフリカのジハード主義者はマリを主要な戦地のひとつであるとみなすようになった。2011 年 1 月、当時 25 歳のチュニジア人青年が自動拳銃、榴弾、爆破装置を所持して在バマコ・フランス大使館を襲撃し、2 名が負傷する事件を起こした。この人物は AQMI の帰属を自供しており、マリ当局によって死刑判決を受けている³¹。

結語および政策提言

以上、チュニジアにおける武装闘争派の展開を考察してきた。2011 年 1 月以降に活発化した国内の武装闘争派の活動は、宣教活動により社会との接触を図ったが、武力による解決を求めた暗殺事件により、当局との全面的な戦いの段階に突入した。現在、当局による掃討作戦により、国内の細胞組織は解体され、活動はかなりの程度封じ込められている。その一方で、武装闘争派は他のジハード主義組織と関係性を強め、反体制的な言説を表明するようになってきている。強固な民主主義体制の構築には、武装闘争派の活動をいかに抑止するかが肝心なことには変わりはない。他方、チュニジア国内のイスラーム武装闘争派の活動が、チュニジア一国を超えていることにも留意しなくてはならない。彼らの活動領域は、近隣のアルジェリア、リビア、さらにマリ、ニジェール、モーリタニアなどのサハラ・サーヘル地域まで及んでいる。中には義勇兵として中東のシリアやイラクに赴き、同地のジハード主義組織に合流する者もいる。

2014 年末の選挙でチュニジア共和国新大統領に選出されたセブスィー氏は、エジプト日刊紙『アフラム』上のインタビューで、「私見によれば、テロリズムとの戦いに経験をもたないチュニジアは、それ一国のみではその戦いを成功させ、それを根絶させることができない。それに対抗するためには、地域的なプランが必要不可欠である」と述べている。³²

2012 年 3 月にトリポリで、翌年 11 月にはラバトで開催された国境警備のための閣僚会

議が、北アフリカ地域、サハラ・サーヘル地域だけでなく、西欧主要国、EU、国連などの国際機関の参加を求めていることからわかるとおり、テロリズムの脅威に対抗するためには一国内のみならず、超国家的、超地域的な解決策が求められている。

我が国の視点からみれば、アルジェリアのアイン・アミーナース（イナメナス）事件で不幸にも証明されたとおり、武装闘争派のテロは在外邦人を攻撃の対象としうる。同事件の教訓を踏まえ、有事に備えた情報収集を継続的に行い、各国との広域の協力・連携を細やかに構築していくことは必要不可欠である。またテロリズムの脅威にさらされている地域的な文脈を理解して、可能な限り、支援を行うことは、上記の観点から我が国の安全保障上も肝要であり、テロリズムと戦う姿勢を国際社会に示すことにつながるであろう。

—注—

- ¹ U. S. Department of State, Office of the Spokesperson, “Terrorist Designations of three Ansar al-Shari’a Organizations and Leaders,” Media Note, 10 January 2014.
- ² M. H. Abdellaoui, “Point de presse du chef du gouvernement provisoire; Laârayedhe joue le statu quo (暫定首相の記者会見；アライドが現状を動かす),” *La Presse Tunisie*, 28 August 2013.
- ³ 記者会見は、ロトフィー・ベン・ジェッドウ内務大臣、ムハンマド・アリー・アラウィー内務省スポークスマン、ムスタファー・タイプ・ベン・ウマル公安局長により行われた。会見全容は、チュニジア国営放送、エル・ワタニーヤ1 (El Wataniya 1) のYouTube上の公式アカウントで視聴可能。
<https://www.youtube.com/watch?v=7Lf3ACSPIdU> (最終閲覧日 2015年1月1日)
- ⁴ 宣教部門は、内務省の記者会見では扱われていない。
- ⁵ 現在は公式サイト、フェイスブックなどの公式アカウントは削除・閉鎖されており、閲覧することができない。YouTube上の公式アカウントが残るのみである。
<https://www.youtube.com/user/ansaralshariatunis> (最終閲覧日 2015年1月1日)
- ⁶ Al-Munjī al-Sa‘īdānī, “Tūnis: munaffīdhū ‘amalīya al-Rūḥīya al-Irhābīya al-Tūnisīyūn (チュニジア: ルーヒーヤのテロ作戦の実行者はチュニジア人である),” *al-Sharq al-Awṣaṭ*, 21 May 2011; Mufīda al-Qīzānī, “Qaḍīya aḥdāth al-Rūḥīya (ルーヒーヤ事件裁判),” *al-Ṣabāḥ (Tūnis)*, 31 May 2012.
- ⁷ ルーヒーヤの衝突で逃走した者のなかには、カセリーン県シャアーニビー山、ケーフ県、ジャンドゥーバ県の山岳地帯に潜伏する武装分子を指揮するアルジェリア人ハーリド・ハンマーディー・シャーイブ、別名ルクマーン・アブー・サフルと、アルジェリア人アフマド・ベン・アフマド・バックール、別名アニス・アーティリーが含まれた。Mufīda al-Qīzānī, “Qaḍīya aḥdāth al-Rūḥīya (ルーヒーヤ事件裁判),” *al-Ṣabāḥ (Tūnis)*, 31 May 2012. および2014年10月13日のムハンマド・アリー・アラウィー・内務省スポークスマンの記者会見。Al-Munjī al-Sa‘īdānī & ‘Ādil al-Naqṭī, “al-Dākhlīya al-Tūnisīya takshaf tafāṣīl mukhaṭṭaṭāt irhābīya wa kifīya wuṣūl al-aslaḥa ilā al-irhābīyīn (チュニジア内務省はテロ計画の詳細とテロリストたちへの武器供与の方法を明らかにした),” *al-Sharq al-Awṣaṭ*, 14 October 2014.
- ⁸ Ṣābir al-Mukashshar, “al-Ṣabāḥ takshif tafāṣīl al-mukhaṭṭaṭ al-ijrāmī lil-‘iṣāba al-irhābīya wa sīnārīyū al-īṭāḥa bi-hā (『サバーフ』はテロリスト集団の犯罪行為と打倒の詳細を明らかにする),” *al-Ṣabāḥ (Tūnis)*, 3 February 2012.
- ⁹ A. N. , “Wazīr al-Dākhlīkhīya yakshif lughz Katība ‘Uqba Ibn Nāfi‘ bi-l-Qaṣrīn wa Jandūba: Mukhaṭṭaṭāt li-shann ḥajamāt irhābīya ‘alā mu’assasāt ‘umūmīya wa maqarrāt amnīya (内務省はカセリーンとジャンドゥーバのウクバ・イブン・ナーフィウ部隊の謎を明かす: 公的機関、治安立寄り所に対するテロリストの攻撃の計画),” *al-Ṣabāḥ (Tūnis)*, 22 December 2012.
- ¹⁰ Ibid.
- ¹¹ Ibid.
- ¹² H. B. , “Enquête (II et fin)- Mohamed Ali Laroui, Porte-parole du Ministère de l’Intérieur: A Tataouine, nous venons de démanteler la cellule la plus dangereuse engage dans le jihad (取材 (II 完)、ムハンマド・アリー・

- アラウィー・内務省スポークスマン：タターウィーンにおいて、私たちはジハードに従事する一番危険な細胞組織を解体したばかりだ),” *La Presse Tunisie*, 11 June 2014.
- 13 ラフムニー国防省スポークスマンの記者会見。A. N. “Tunisie : opération militaire de "grande ampleur" en cours à Chaambi (チュニジア：シャアニービーで「大規模」な軍事作戦が進行中),” *Le Monde*, 2 August 2013.
- 14 H. Sulaymān, “Jaysh ‘azzaza imkāniyata-hu wa qudrāta-hu ‘alā al-ḥudūd al-sharqīya ([アルジェリア] 軍は東部国境の軍備を強化した),” *al-Khabar (al-Jazāir)*, 2 August 2013.
- 15 Arrêté Républicain n° 2013-230 du 29 août 2013, portant proclamation d’une zone frontalière tampon.
- 16 Arrêté Républicain n° 2014-70 du 11 avril 2014, portant proclamation d’une zone d’opérations militaires.
- 17 A. N. , “En Tunisie, l’armée victime de la plus grave attaque depuis 1956 (チュニジア軍が 1956 年以降もっとも深刻な犠牲者を出す),” *Le Monde*, 17 July 2014; A. N. “Tunisie : fermeture des mosquées et divers médias liés à l’islamisme radical (チュニジア：モスクおよびイスラーム主義過激派に結びつくさまざまなメディアの閉鎖),” *Le Monde*, 20 July 2014.
- 18 同アカウントは、現在は削除・閉鎖されている。
- 19 A. N. , “Mehdi Jomāa en visite en Algérie: Objectif: une stratégie antiterroriste commune,” *La Presse Tunisie*, 23 July 2014.
- 20 A. N. , “Wazīr al-Dākhilīya fī al-Ta’sīsī: Irhābīyū al-Sha‘ānībī min dhawī al-sawābiq al-‘adlīya wa qādimūn min Mālī (制憲 [議会] における内務大臣：シャアーニービーのテロリストは前科のある者であり、またマリから来ている),” *al-Shurūq (Tūnis)*, 9 May 2013.
- 21 Aḥmad al-Nazīf, “Tūnis: Qā’id majmū’a jabal al-Sha‘ānībī ‘Jihādī’ Jazāirī (チュニジア：シャアーニービー山集団の指導者はアルジェリア人ジハード主義者である),” *Al Arabiya*, 31 August 2013.
<http://www.alarabiya.net/ar/north-africa/tunisia/2013/08/31/%D9%82%D8%A7%D8%A6%D8%AF-%D9%85%D8%AC%D9%85%D9%88%D8%B9%D8%A9-%D8%AC%D8%A8%D9%84-%D8%A7%D9%84%D8%B4%D8%B9%D8%A7%D9%86%D8%A8%D9%8A-%D8%AC%D9%87%D8%A7%D8%AF%D9%8A-%D8%AC%D8%B2%D8%A7%D8%A6%D8%B1%D9%8A.html> (最終閲覧日 2015 年 1 月 1 日)
- 22 Othmān Lahyānī, “Wazīr al-Dākhilīya al-Tūnisī Luṭfī Ben Jaddū fī ḥiwār lil-Khabar (ロトフィー・ベン・ジェッドウ・チュニジア内務大臣、『ハバル』との対話),” *al-Khabar (Al-Jazāir)*, 29 November 2014.
- 23 Ayyūb al-Ḥaydūsī “Wizāra al-Dākhilīya: Īqāf 45 irhābīyan wa tadmīr 15 wakran fī al-Sha‘ānībī wa raṣd ittiṣālāt lil-Jazāirī Mūsā Abū Riḥla ma’a al-irhābīyin (内務省：45 名のテロリスト拘束、シャアーニービーの 15 の巣を解体、アルジェリア人ムーサー・アブー・リフラとテロリストとのつながりを観測),” *Ḥaqāiq On Line*, 31 May 2013. <http://www.hakaekonline.com/?p=14700> (最終閲覧日 2015 年 1 月 1 日)
- 24 2013 年 5 月 31 日の記者会見で公開された情報は、チュニジア内務省のフェイスブックの公式アカウント (Ministère de l’Intérieur - Tunisie) にアップロードされた動画 (2013 年 6 月 1 日付) で視聴可能である。
<https://www.facebook.com/video.php?v=340642019394854&set=vb.192600677433983&type=3&theater> (最終閲覧日 2015 年 1 月 1 日) また記者会見の情報は、チュニジア・ビジネス・ニュース・ドットコム of YouTube 上のアカウントでも閲覧可能である。<https://www.youtube.com/watch?v=PCi9G8rww60> (最終閲覧日 2015 年 1 月 1 日)。
- 本原稿が提出される 2015 年 1 月時点でこの情報はやや古いものとなっていることは否めない。ただしその情報から一定の傾向を読み取ることが可能であり、本稿ではこれを提示した。
- 25 ロトフィー・ベン・ジェッドウ・チュニジア内務大臣の談話。Othmān Lahyānī, “Wazīr al-Dākhilīya al-Tūnisī Luṭfī Ben Jaddū fī ḥiwār lil-Khabar (ロトフィー・ベン・ジェッドウ・チュニジア内務大臣、『ハバル』との対話),” *al-Khabar (Al-Jazāir)*, 29 November 2014. ただしムハンマド・アリー・アラウィー・内務省スポークスマンは、別の機会でシリアで戦闘に従事するチュニジア人は、最大で 4000 名であると推定している。H. B. , “Enquête (II et fin)- Mohamed Ali Laroui, Porte-parole du Ministère de l’Intérieur: A Tataouine, nous venons de démanteler la cellule la plus dangereuse engage dans le jihad (取材 (II 完)、ムハンマド・アリー・アラウィー・内務省スポークスマン：タターウィーンにおいて、私たちはジハードに従事する一番危険な細胞組織を解体したばかりだ),” *La Presse Tunisie*, 11 June 2014.
- 26 Aaron Y. Zelin, “Foreign Jihadists in Syria: Tracking Recruitment Networks,” *Policy Watch 2186*, The Washington Institute for Near East Policy, 19 December 2013.
- 27 Sarḥān al-Shaykhānī, “Luṭfī Ben Jiddū: 2400 Tūnisī yuqātilūn fī Sūriyā wa khuṭṭa lil-taṣaddā li-Dāish (ロトフィー・ベン・ジェッドウ：シリアで戦闘に従事するチュニジア人は 2,400 名、ISIS に呼応する計画),” *al-Shurūq (Tūnis)*, 24 June 2014.
- 28 N. B. , “Sellal: Cet acte terroriste était planifié depuis deux mois (サッラール：このテロ行為は 2 ヶ月前か

- ら計画組織された),” *Le Temps d’Algerie*, 21 January 2013.
- ²⁹ Othmān Laḥyānī, “Wazīr al-Dākhilīya al-Tūnisi Luṭfī Ben Jaddū fī ḥiwār lil-Khabar (ロトフィー・ベン・ジェッドゥ・チュニジア内務大臣、『ハバル』との対話),” *al-Khabar (Al-Jazāir)*, 29 November 2014.
- ³⁰ *Ibid.* ベン・ジェッドゥ内務大臣によれば、アンサール・シャリーアの指導者サイフッラー・イブン・フサインはリビア・ダルナ地域に潜伏していることが確認されている。
- ³¹ A. N., “Explosion devant l’ambassade de France au Mali (在マリ・フランス大使館前での爆発),” *Libération*, 6 January 2011.
- ³² Kārim Yaḥyā, “Al-Bājī al-Sibsī lil-Ahrām: Miṣr ḥajar al-zāwiya fī al-‘alāqāt al-‘arabīya (ベージー・セブスィーが『アフラーム』に：エジプトはアラブ関係の隅石である),” *al-Ahrām*, 2 December 2014.